

萩生田氏の議長交代論 波紋

「有力な議長を置いて、憲法改正シフトを」

自民党の萩生田光一幹事長代行がインターネット番組で、憲法改正の議論加速を図る「憲法改正シフト」の布陣を敷く文脈で大島理森衆院議長の交代論に言及した。参院選後、改憲議論の加速でアケセルを踏んでいる安倍晋三首相の側近による発言だけに、与野党に波紋が広がっている。

幹部「人事口出し 処分もの」



萩生田光一・自民党幹事長代行



大島理森 衆院議長

発言は26日夜、改憲議論における衆院議長の役割の重要性について、出演者のジャーナリストから問われた際に出た。萩生田氏は「憲法改正をするのは総理ではなく国会で、最終責任者は総理ではなく議長」と主張。大島氏について「立派な方だが、どちらかという調整型。議長は野党に気を使うべき立場だが、気

を使いながら(憲法審査会)の審査はやってもらうように促すのも議長の仕事だったと思う」と述べ、不満をにじませた。

「三権の長」である衆院議長は第1党から選出されるのが慣例で、与野党を超えた公正な運営をするため所属党派を離脱し就任する。国会法は「議院の秩序を保持し、議事を整理し、議院の事務を監督し、議院を代表する」と定め、本会議の議事進行などを行うが、憲法審査会のような個別の委員会や審査会の運営に直接関与することはほとんどない。

大島氏の任期は衆院議員と同じ21年までで、衆院が解散されるまで務めるのが慣例。過去に任期途中で交代したのは、平成以降では

2例しかなく、安倍首相が9月前半に実施を調整している内閣改造・自民党役員人事に伴う衆院議長交代が想定されていたわけでもなかった。

ところが、萩生田氏の発言は、こうした慣例や「常識」を覆しても改憲議論を加速させるには、「今のメンバーでなかなか動かないとすれば、有力な方を議長において憲法改正シフトを国会が行っていくのは極めて大事な」と踏み込んだ。萩生田氏は首相側近で、官邸の意向とも受け取られかねないだけに、政権は火消しに回っている。

交代論を否定。別の幹部も「議長の人事に口を出すなど処分ものだ」と怒りをあらわにした。自民党の高市早苗・衆院議院運営委員長は29日、国会内で「萩生田さんが議長を交代できるわけではない」と指摘。憲法改正を進めるために議長を交代させるという考えにも「賛同できるものではない。議長は憲法審のことだけをやっているわけではなく、衆院全体の運営に責任を持つ方だ」と述べた。

共産党の小池晃書記局長は東京都内で記者団に「言語道断。議会制民主主義の根本をひっくり返すような発言だ」と反発した。

(大久保貴裕)

■自民党・萩生田光一幹事長代行のインターネット番組でのやりとり(抜粋)

ジャーナリストの櫻井よしこ氏：(安倍晋三)総理が(衆院)議長を二階(俊博・自民党幹事長)さんをお願いするとしたら、それは安倍さんが絶対に憲法改正をやりとげるとい意志と解釈していいですかね？

ジャーナリストの石橋文登氏：そうじゃないですかね。やっぱり、弱い議長だと院は動かないですからね。

櫻井氏：萩生田さんは？ 野党にもにらみが利く、そしてコントロールが利く実力者を議長にするとしたら、総理の並々ならぬ憲法改正にかけた熱意だと思われませんか？

萩生田氏：憲法改正するのは総理ではなくて、まさしく国会だ。石橋さんの解説は極めて大切で、本来国会議員が憲法審査会を回していけないといけない。最終責任者は誰かという、(自民党)総裁でもなく総理でもなく、議長だ。私はそういう意味では議長が、大島(理森)議長もそれは立派な方だが、どちらかという調整型で、まあ議長というのはどちらかという野党に気を使うべき立場なんですね。これはお互い様だが、本当は気を使いながら、審査はやってもらうように促すのもまた議長の仕事だったと思いますが、今のメンバーの中ではなかなか動かないとすれば、有力な方を議長に置いて、憲法改正シフト、国会が行っていくのは極めて大事だ。